

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	商空間計画	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2024年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉竹 徹（自らのデザイン事務所を20年主宰している、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	店舗計画から商業施設に至る様々な商空間計画の基本的な専門知識を習得する。また、この授業内容と関連する『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。 その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教材・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. 生活とデザイン	①商業のなりたち ②商業のしくみ ③商業と情報技術
第3回 第4回	3. さまざまな商業のかたち	①暮らしと商業～業種と業態 ②商業のかたち A.物品販売施設 B.飲食サービス施設 C.各種サービス施設 D.複合商業施設 E.展示施設 F.その他の商業のかたち
第5回 第6～7回 第8～9回	4. 店舗のつくり方	①店舗(商業施設)の役割 ②店舗の調査分析 ③店舗戦略
第10回 第11回 第12～13回	5. 物品販売業態の計画演習	①店舗設計上のチェックポイント ②デザインイメージ、エスキース作成 ③プランニング図面作成
第14回 第15回 第16～17回	6. 飲食サービス業態の計画演習	①店舗設計上のチェックポイント ②デザインイメージ、エスキース作成 ③プランニング図面作成

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週 年間計19週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2024年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	初めて建築計画を学ぶものにとって、最も身近な生活の器である住宅について、その計画の方法を理解し、快適な住空間を創造する計画技術を学ぶ。さらには集合住宅や学校、図書館、美術館、事務所など各種建築物の計画など、人々が社会生活を営むために必要な様々な施設の計画手法や最新事例についても学んでいく。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建築計画の基本	ガイダンス
第2・3回	① 建築計画の基本知識	①単位と寸法 ②建築計画の進め方の基本
第4～6回	② 各部および単位空間の計画	①各部の計画 ②単位空間の計画
	2. 各種建築物の計画	
第7～10回	① 独立住宅の計画	①独立住宅における平面計画と配置計画の原則 ②独立住宅における諸室の計画 ③独立住宅の平面形式 ④独立住宅の事例 ⑤独立住宅の工法
第11～14回	② 集合住宅の計画	①集合住宅の形式と分類 ②集合住宅の計画上の要点 ③集合住宅の事例 ④集合住宅地の計画
第15・16回	③ 小学校の計画	①小学校の構成 ②小学校の授業運営方式 ③小学校に関する計画上の要点 ④小学校の実例分析 ⑤小学校の計画に関するその他留意事項 ⑥中学校・高等学校の計画上の要点
第17・18回	④ 幼稚園・保育所の計画	①幼稚園・保育所の構成 ②幼稚園・保育所の諸室および重要事項 ③幼稚園・保育所の実例分析 ④その他の留意事項
第19・20回	⑤ 図書館の計画	①図書館の構成 ②図書館の計画に関する最重要事項 ③図書館の諸室および重要事項 ④図書館の実例分析 ⑤図書館の計画に関するその他留意事項
第21・22回	⑥ 美術館の計画	①美術館の構成 ②美術館の計画に関する重要事項 ③美術館の実例分析 ④美術館の計画に関するその他重要事項
第23・24回	⑦ 劇場の計画	①劇場の構成 ②劇場の分類 ③劇場の計画の基本事項と必要諸室 ④劇場の舞台構成 ⑤劇場の実例分析 ④劇場の計画に関するその他留意事項
第25・26回	⑧ 事務所の計画	①事務所に関する計画上の重要事項 ②事務所の実例分析 ④事務所に関する計画上のその他留意事項
第27・28回	⑨ ホテルの計画	①ホテルの構成 ②ホテルの種類と諸室 ③ホテルの実例分析 ④ホテルに関する計画上のその他留意事項
第29・30回	⑩ 病院・診療所の計画	①病院・診療所の構成 ②病院の実例分析 ③病院に関する計画上のその他留意事項
第31・32回	⑪ 商業建築の計画	①商業建築の形式と分類 ②商業建築の実例分析
第33・34回	⑫ 各種建築物の計画	①高齢者福祉施設などの分類と計画概要 ②駐車・駐輪施設などの計画概要 ③スポーツ施設などの計画概要 ④その他各種建築物の計画概要

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2024年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	各施設計画における用語や基本的な考え方を理解する。そのうえで、実際の建築事例に対する計画学的読解力を高める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールの説明
第2回	① 高齢者・障害者に配慮した建築計画	①ノーマライゼーションの普及と展開
第3回		②日本における関係法令の整備
第4回		③高齢者・障害者に配慮した建築計画
第5回	② 地球環境に配慮した建築計画	①環境問題概観
第6回		②環境問題に対する取り組みと「持続可能な社会」
第7回		③資源循環型住宅と環境共生住宅
第8回・9回		④コンバージョンとリノベーション
第10回・11回	③ 建築計画の今後	①特殊な機能を有する建築物と複合的な機能を有する建築物
第12回・13回		②都市機能と密接な関係を有する建築物
第14回・15回		③景観形成に配慮した建築計画のあり方
第16回・17回		④防災・減災に配慮した建築計画のあり方

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2024年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋エンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	建築工法の概要	構法の変遷、構造の分類
第3回	木質構法の特徴1	木質構法の種類、設計図書
第4回	木質構法の特徴2	木材(建築用木材 組織と性質、規格、変形)
第5回	木質構法の特徴3	木材(木質材料)
第6回	軸組工法1	軸組み工法の構成、部材名称、力の流れ
第7回	軸組工法2	基礎、地盤調査、地業
第8回	軸組工法3	軸組 ～土台、柱、桁・梁・胴差、継手・仕口
第9回	軸組工法4	小屋組 ～和小屋、洋小屋
第10回	軸組工法5	小屋組 ～屋根伏作成(切妻・寄棟)1
第11回	軸組工法6	小屋組 ～屋根伏作成(切妻・寄棟)2
第12回	軸組工法7	壁、筋交い ～概説
第13回	軸組工法8	壁、筋交い ～壁量計算1
第14回	軸組工法9	壁、筋交い ～壁量計算2
第15回	軸組工法10	床組の構成
第16回	軸組工法11	内外装 ～床、内壁、天井、外壁
第17回	軸組工法12	開口部、建具
第18回	その他木造工法	枠組壁工法、大断面集成材工法
第19回	鉄筋コンクリート構造1	構造形式と構造の原理、設計図書
第20回	鉄筋コンクリート構造2	コンクリート(セメント、骨材、混和材)1
第21回	鉄筋コンクリート構造3	コンクリート(セメント、骨材、混和材)2
第22回	鉄筋コンクリート構造4	コンクリート(調合、発注)1
第23回	鉄筋コンクリート構造5	コンクリート(調合、発注)2
第24回	鉄筋コンクリート構造6	鉄筋(種類と強度)1
第25回	鉄筋コンクリート構造7	鉄筋(種類と強度)2
第26回	鉄筋コンクリート構造8	鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)1
第27回	鉄筋コンクリート構造9	鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)2
第28回	ラーメン構造1	ラーメン構造の構成、部材名称、力の流れ1
第29回	ラーメン構造2	ラーメン構造の構成、部材名称、力の流れ2
第30回	ラーメン構造3	基礎、柱、梁、スラブ、壁1
第31回	ラーメン構造4	基礎、柱、梁、スラブ、壁2
第32回	ラーメン構造5	柱・梁の鉄筋量の算定1
第33回	ラーメン構造6	柱・梁の鉄筋量の算定2
第34回	その他RC構造	壁式構造、プレキャスト構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2024年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	将来インテリア・建築に関連する業務において、知っておくべき最低限の現場実践的な知識の理解を目指す。建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	契約・計画・管理 契約・仕様書 施工計画	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方 工事計画 施工計画 工程計画
第2回	施工管理 工事準備	現場 安全 材料 品質管理 申請・届出・手続き 各調査
第3回	各部工事 仮設工事	仮設工事の要点 種類 仮囲い 足場 栈橋 架設通路 安全施設
第4回	土工事 地業工事 基礎工事	地盤調査 土工事 地業工事 杭工事
第5回	鉄筋工事	鉄筋の種類 鉄筋の加工・組立 定着 継手
第6回	型枠工事	型枠の材料 加工・組立 解体 特殊工法
第7回	コンクリート工事	コンクリートの材料 用語 調合 製造 運搬・打込・養生 品質管理・試験方法等
第8回	鉄骨工事	材料 工場作業 接合 現場作業 耐火被覆
第9回	組積工事	補強コンクリートブロック工事 ALC工事 れんが工事
第10回	木工事	材料 加工 造作工事 枠組壁工法
第11回	防水工事	防水の種類 メンブレン防水工事 シーリング工事
第12回	左官工事	各種下地 塗り工事 吹付け工事
第13回	タイル工事 石工事	
第14回	塗装工事 建具工事 ガラス工事	種類と特性 素地ごしらえ 工法
第15回	内装工事 断熱工事 設備工事	給排水衛生 建築と設備の関連
第16回	各種工事 施工用語 施工機械器具	屋根工事 金属工事 揚重・運搬用機械 土工事用機械 各種工事用機械 工法と工事等の関係
第17回	その他 積算 測量	工事費の構成 積算用語 積算の基本事項 各種工事の歩掛り・割増率 縄張り・やりかた 各種測量

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2024年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築の歴史を学ぶという事は、先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認であり、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠な身の構えである。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせること。また建築士試験レベルの問題に取組み、その対策とすることを目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 日本建築史	ガイダンス・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回		1:竪穴式住居と高床式建物(三内丸山遺跡)／2:古代の神社建築(伊勢神宮/出雲大社)
第3回		3:仏教建築の伝来(法隆寺金堂)／4:古代の都市計画と住宅(平安京、平城京)
第4回		5:浄土教の建築(平等院鳳凰堂)／6:中世の仏教建築(浄土寺浄土堂)
第5回	2. 日本近代建築史	7:中世の神社建築(厳島)／8:中世の住宅から書院造へ
第6回		9:城郭建築(姫路城)／10:茶室と数寄屋(桂離宮)
第7回		11:近世の寺社建築(善光寺、日光東照宮、栄螺堂)／12:民家
第8回		1:西洋文化の移入(グラバー邸/富岡製糸場)／2:日本人建築家の誕生(東京駅/日本銀行)
第9回	3. 西洋建築史	3:洋式建築の展開と新しい様式の模索／4:都市計画および構造技術の発達
第10回		5:モダニズム建築の到来／6:戦後復興から高度成長期にかけて(広島平和記念館)
第11回		7:戦後の住宅政策とDK住宅の誕生／8:日本建築界からの発信
第12回		9:モダニズムの先を求めて(つくばセンタービル/京都駅ビル/せんだいメディアテーク)
第13回	4. 西洋近代建築史	1:エジプト建築(ギザのピラミッド)／2:オリエント建築
第14回		3:ギリシア建築(パルテノン神殿)／4:ローマ建築(パンテオン、コロッセウム)
第15回		5:初期キリスト教建築／6:ビザンティン建築
第16回		7:イスラム建築／8:ロマネスク建築
第17回		9:ゴシック建築／10:中世の世俗建築
第18回		11:ルネサンス建築／12:バロック建築／13:リヴァイヴァル建築
第19回		1:新材料を用いた構築物(1851ロンドン万博/1889パリ万博)／2:都市問題・住宅問題
第20回		3:アーツ・アンド・クラフツ運動(マッキントッシュ)
第21回		4:アール・ヌーヴォ(オルタ、ギマール、ガウディ、モンタネル)
第22回		5:アメリカ建築の近代化(シカゴ高層建築)／6:セセッション(ヴァーグナー)
第23回		7:鉄筋コンクリート造建築の登場／8:ドイツ工作連盟(AEGタービン工場)
第24回		9:近代建築運動(シュレーダー邸)
第25回		10:モダニズム建築の完成と流布(グロピウス、ミース、コルビュジェ、ライト)
第26回		11:アール・デコとスカイスクレイパー(クライスラー/エンパイアステートビル)
第27回		12:第二次世界大戦後の建築(シドニー・オペラハウス)
第28回		13:ポストモダニズム建築(ポンピドー・センター/香港上海銀行)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	構造力学	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2024年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	初歩的な構造物を対象に力のつり合いについて学び、建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているかの解法を身につける。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	構造力学概論	建築物の支点・節点および荷重のモデル化、構造物の分類
第3回	力とモーメント	力・モーメント・偶力
第4回	力の合成と分解	合成・分解の計算方法
第5回	力のつり合い	つり合い式
第6回	反力	反力の算定(梁)
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回	応力	反力の算定(3ヒンジ系ラーメン)
第12回		応力の算定(片持ち梁)
第13回		
第14回		
第15回		応力の算定(単純梁)
第16回		応力の算定(ラーメン)
第17回		
第18回	トラス	切断法による応力の算定(片持ち梁式トラス)
第19回		
第20回		切断法による応力の算定(単純梁式トラス)
第21回		
第22回	断面の性質	断面一次モーメント
第24回		断面二次モーメント
第25回		断面係数
第26回	座屈	
第27回		
第28回	応力度	垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度
第29回		
第30回		
第31回	不静定構造物	たわみ、たわみ角
第32回		
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2024年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみを持ち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	法令集のつくり方(インデックスの貼り方、アンダーラインの引き方)
第2回		
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回	高さ制限	絶対高さ制限、道路高さ制限、隣地高さ制限、北側高さ制限
第16回	確認申請・手続	確認申請、完了検査、中間検査
第17回		
第18回		
第19回		
第20回	採光	採光有効面積
第21回		
第22回		
第23回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第24回		
第25回		
第26回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第27回		
第28回		
第29回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第30回		
第31回		
第32回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2024年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	遠藤 和広（大手サブコン、中堅設備設計事務所をへて独立。設備設計事務所EOSplus創業者、工学院大学建築学部 非常勤講師 等の実務経験を活かして授業を行う。）				
授業の到達目標	建築設備の理解と職業の解説(建築設備はむずかしくないことを伝える) 主として戸建て住宅や集合住宅等に関する環境・設備の理解 その具体的な内容及び到達目標は別途資料であるルーブリック表を参照のこと				
授業の概要及び特徴	講義方式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。 またパワーポイントWEB等の教材を利用し、建築設備に関する実務の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。実務図面を利用しての設備プロット図の作成、その評価。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	事例紹介 設備を学ぼう 建築設備エンジニアの道 建築設備士年収
第2回	空調・衛生・電気	校内・家の中にある設備を調査する
第3回	衛生設備	給水と排水 インフラについて 計画敷地の事前調査について
第4回	給水設備	給水方式 用語の解説
第5回	排水設備	排水設備 用語の解説
第6回	空調設備	室内環境 冷暖房 負荷計算
第7回	換気設備	冷暖房から空気調和へ 室内空気環境の基準 必要換気量の計算
第8回	空調設備のしくみ	ヒートポンプについて 冷熱源・温熱源装置等
第9回	電気設備(1)	電気はどこからやってくる？
第10回	電気設備(2)	電気を送るしくみ 強電設備
第11回	電気設備(3)	情報を通信するしくみ 弱電設備
第12回	電気設備(4)	電灯設備 配線について
第13回	防災設備	災害 火災 停電 自然災害
第14回	中央監視設備	中央監視と自動制御設備のはたらき
第15回	これからの建物づくり	ZEH ZEB HEMS BCP 環境性能とは
第16回	まとめ	
第17回	試験	

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2024年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	使用する材料の選択は重要である。意匠面だけでなく、安全性や耐久性という建築の性能に関わる。材料に実際に触れる機会を設け、卒業後に設計の現場において適切な材料の選択ができる能力を養う。材料同士の取り扱い、おさまりについても学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、教科書その他スライドや配布プリントを使用。テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容		
第1回	建築材料の概要	①建築材料の歴史 ②建築材料と規格		
第2回	木 材	①日本建築と木材	②木材の種類	③木材の特徴
第3回		④木材の強度	⑤木材の構造	⑥木材と水分
		⑤木取り、規格、等級	⑧エンジニアリングウッド	
第4回	コンクリート	①コンクリートとは	②セメント	③骨材
第5回		④水	⑤混和材料	⑥コンクリートの性質
		⑦調合設計	⑧コンクリートの種類	⑨コンクリートの製品
第6回	鋼 材	①鉄の歴史	②鋼材とは	③製鋼の工程
第7回		④鋼材の特徴	⑤鉄鋼の種類	⑥鋼材の性質
		⑦鋼材の腐食と防食	⑧鋼材の規格	⑨非鉄金属
第8回	焼成品	①焼成品は焼き物	②タイル	③れんが
第9回		④瓦	⑤衛生陶器	
第10回	ガラスと石	①ガラスとは	②ガラスの歴史	③ガラスの特徴
第11回		④ガラスの種類	⑤石材とは	⑥石材の特徴
		⑦石の分類		
第12回	左官材料・ ボード類	①左官とは	②左官の起源と定義	③左官の特徴
第13回		④近年の左官仕事	⑤左官の種類	⑥ボード類
第14回～ 第17回	その他の材料	①プラスチック材料 ④造作材 ⑥建具	②塗料 ⑤屋根材・防水材・断熱材	③接着剤

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	環境工学	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2024年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	快適な空間を理解し、自らそれを作り出すために、建築が人間に与える環境(熱・空気・光・音など)について工学的な基礎知識を学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	波の性質1	波の性質、波としての音、波としての光
第3回	熱の性質2	熱とは、熱の伝わり方
第4回	太陽と地球1	太陽位置、地球の公転・自転、日照と日影
第5回	太陽と地球2	太陽からの放射と地球放射
第6回	太陽と地球3	地球の大気と気象
第7回	光1	光の知覚と物理量
第8回	光2	明るさと快適性①快適な視環境、視環境に影響する諸現象
第9回	光3	明るさと快適性②光源の種類と特徴、電灯照明、昼光照明
第10回	光4	色彩設計 ～色の名前、色彩心理
第11回	熱1	人体の熱収支、温熱快適要素、温熱快適指標
第12回	熱2	室内環境における熱収支、断熱、蓄熱
第13回	熱3	湿気、結露、対策
第14回	熱4	室内空気汚染、換気(目的、必要換気量、原理、種類)
第15回	音1	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)
第16回	音2	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	パース演習	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2024年度・1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也(パース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース(透視図)の作成技法を習得する。具体的には①1点透視図法②2点透視図法③グリッド法などの基本的な作図手順から、パステル・色鉛筆などによる着色までを学ぶ。また、この授業内容と関連する『インテリアコーディネーター』、『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、参考建物の見学・スケッチなど、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	1、フリーハンドによるスケッチ	①図法による作図を行う前に、フリーハンドで簡単な立体を描かせることにより、デッサン力を養う。
第4～5回	2、建物スケッチ	①江戸東京たてもの園などに行き、明治・大正・昭和の建物群を見学し、その中の1つの建物をスケッチする。
第6～15回	3、1点透視図・グリッド法による作図	①1点透視図・グリッド法で簡単な立体から室内パースの作図及び着色を行う。
第16～25回	4、2点透視図による作図	①2点透視図で簡単な立体から建築外観パースの作図及び着色を行う。
第26～36回	5、店舗併用住宅の着色パースを描く	①設計Ⅰと連動し、自分がデザインした商業施設の着色パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着色まで一通りのスキルを身につける。
第37～47回	6、ショップの着色パースを描く	①ショップデザインⅠと連動し、自分がデザインしたショップの着色パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着色まで一通りのスキルを身につける。
第48～68回	7、商業施設の着色パースを描く	①設計Ⅱ(進級制作)と連動し、自分がデザインした商業施設の着色パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着色まで一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーション	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度：1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也(インテリアデザイン事務所、不動産会社にて、商業施設の開発、店舗の設計管理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」を主としたデジタルツールの操作習得を通し、自身が計画した提案を、他者へ的確に伝えるプレゼンテーション能力を身に着けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得し、効果的な提案資料作成の基盤を作る。また、設計課題とも連動し、より実践的な提案資料の作成、プレゼンテーションについても学ぶ。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. パソコンを使用する準備	・アプリケーション(illustrator、photoshop)のインストール
第3・4回 第5・6回	2. プレゼンテーションの基礎	・提案与件の整理について ・ビジュアルプレゼンテーションについて
第7・8回 第9・10回 第11・12回	3. Photoshopの基礎	・ラスターデータとベクターデータ ・ピクセル・解像度について ・レイヤー・マスクについて ・画像の切り抜き
第13・14回 第15・16回	4. Photoshopの応用(1)	・背景、添景の合成 ・人の合成 ・写真補正(レベル補正 アンシャープ機能 陰影付けと修正)
第17・18回	5. Photoshopの応用(2)	・CG用テクスチャーの作成 ・手描き風写真加工
第19・20回 第21・22回 第23・24回	6. illustratorの基礎	・[線]：ペンツール、ペジェ曲線、アンカーポイント、パス、ブラシ ・[面]：面作成、レイヤー前後関係、加工、パスファインダー ・[カラー]：カラー設定、スウォッチ登録、グラデーション ・トレースチャレンジ・ライブペイント ・[文字]：文字設定、段落設定、文字のレイアウト、フリーフォントの活用 ・[画像配置]：解像度おさらい、画像のリンク、埋め込み、ライブトレース、ラスターライズ
第25・26回 第27・28回	7. illustratorの応用(1)	・レイアウトのルール、手順・フォントの選定 ・学生名刺の作成
第29・30回	8. illustratorの応用(2)	・VectorからIllustrator、図面の着色、ドロップシャドウ
第31・32回 第33・34回	9. プレゼンテーションの実践	・Powerpointの基本 ・プレゼン資料(スライド)の考え方 ・設計演習課題との連動(スライド、ビジュアルデータの作成)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度：1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇(建築設計事務所で、教会設計、土気ヒルズと沢山の街並み計画、実施設計、その他数々の住宅を手掛け新築からリフォームまでインテリア、エクステリア、ライティングまでトータルにデザイン設計を行う経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「建築製図Ⅰ」では、主に木造住宅の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	建築製図Ⅰの目的と概要、図面の見方、其の他基本的注意事項
第2・3回	2. 基礎製図	用具の使い方・線の練習
第4・5回	3. 木造住宅	求積図・案内図／一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第6・7回		配置図・平面図1・100／配置図の目的と描き方・配置の意味 敷地の形状・高低差・方位・敷地境界線までの距離
第8・9回		1・2階平面図1・100／平面図の読み方・描き方の説明
第10・11回		1・2階平面図1・100／柱・壁・窓・出入口・・・などを理解する
第12・13回		1・2階平面図1・100／真壁・大壁の違いを理解する
第14・15回		1・2階平面図1・100
第16・17回		立・断面図1・100／立断面図の見方・描き方の説明
第18・19回		立・断面図1・100／床高・天井高・軒高・内法高・・・などの意味
第20・21回		立・断面図1・100
第22・23回		立・断面図1・100
第24・25回		矩計図1・20／矩計図の見方・描き方の説明
第26・27回		矩計図1・20／各階の基準寸法の理解・軒の出・窓の描き方
第28～30回		矩計図1・20／各階の詳細部分の理解・表現の描き方
第31～34回		矩計図1・20／まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	前半は課題文の読取り方・手順を体験し、エスキスの進め方・考え方を習得する。 後半は作図練習を行い、制限時間内に精度の高い図面を描き上げる作図力の習得を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の概要、授業の目標・資料・スケジュール・評価方法などを説明
第2・3回	2. エスキスの基本	エスキスの概要、課題文の読取り方の説明
第3・4回		●木造2階建て専用住宅及び併用住宅のエスキスを行う
第5・6回		・4.55mmのグリッドを利用した、縮尺1/100・1/200における長さ・広さの考え方の説明。
第7・8回		・m ² 指定の居室及び収納を4.55mmグリッド上で表現する手法を実習。
第9・10回		・指定された水廻り等の所要室を、指定されたスペースの中で納める手法を実習。
第11・12回		・敷地境界線からの空間の目安を説明。
第13・14回		・駐車スペース、駐輪スペースの大きさを説明。
第15・16回		・敷地の有効利用を考慮した建物配置の実習。
第17・18回		・各階の床面積の計算手法、延べ面積の計算手法、省略の規定を説明。
第19・20回		・設計メモの描き方を説明・実習。
第21・22回		・面積指定されていない居室の想定面積説明。
第23・24回		・指定された延べ面積で納めるエスキスにするための、各階の算定方法の説明・実習。
第25・26回		エスキース課題①～③
第27・28回		エスキース課題④～⑤
第29・30回	3. 部分詳細図	部分詳細図の概要
第31・32回	作図演習	●木造2階建ての建物の部分詳細図(断面)を作図し、時間内で精度の高い図面を作図する。
第33・34回		部分詳細図講義①―基礎廻り
第35・36回		・全体の基準線と寸法、次に基礎廻りの作図手順を説明。
第37・38回		部分詳細図講義②―屋根廻り
第39・40回		・4寸勾配の屋根部分の作図手順を実演、実習。
第41・42回		部分詳細図講義③―2階床廻り
第43・44回		・2階床廻り部分の作図手順を説明。
第45・46回		最終確認・まとめ
第47・48回		・45分間で精度の高い図面を作図する試験を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザイン I	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(102時間)	開講・履修期	2024年度・1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹(自らのデザイン事務所を20年主宰している、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	立地周辺の調査・分析、施設条件の把握、ターゲットの設定、ストアコンセプト・デザインコンセプト・MDコンセプトの策定から平面図・天井伏図・展開図(断面図)・立面図(ファサード)、パース・模型作成に至る一連の実践的デザイン作業を行い、商空間デザイナーとしての基本的なスキルを身に着けることを目的とする。その集大成として、商業施設内の1テナント区画を設定し、そこにふさわしい業態の小規模店舗を設計する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教材・スケジュール・評価方法などを説明
第2～9回	2. 物品販売業態の店舗設計	①物品販売業態の店舗リサーチ:レポート作成 ②店舗レイアウト、店舗ファサード計画、商品陳列台 ③ロゴデザインとサイン計画 成果物: レイアウト計画/ファサード計画案/商品陳列台スケッチ/ロゴデザインとサイン計画
第10～17回	3. 飲食サービス業態の店舗設計	①飲食サービス業態の店舗リサーチ:レポート作成 ②店舗レイアウト、店舗ファサード計画、アプローチ部分、着座方式別のプランニング・パターン ③カウンターの形状、客席に付帯する施設 ④ロゴデザインとサイン計画 成果物: レイアウト計画/ファサード計画案/店舗内スケッチ/ロゴデザインとサイン計画
第18～19回	4. 小規模店舗設計の概要	概要・教材・スケジュール・目標などを説明
第20～21回	5. 調査・分析	①商業施設内及び周辺店舗リサーチ
第22～24回	6. プログラミング(業態設定)	①ターゲット、MD構成などの設定
第25～29回	7. プランニング(イメージ・コンセプト)	①プランニング ②コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第30～36回	8. デザイン	①平面・展開・什器などのスケッチ等作成
第37～47回	9. ビジュアライゼーション 視覚化(図面・模型作成)	①ストアコンセプト・デザインコンセプト・MDコンセプト ②平面図・天井伏図・展開図・什器図 ③パース・模型など
第48～51回	10. プレゼンテーション(発表)	①成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーション (自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼンテーション能力が必要とされる) →各作品に対する講評

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザインⅡ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度・2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	立地周辺の調査・分析、設計条件の把握、ターゲットの設定、コンセプトの策定から平面図・天井伏図・展開図(断面図)・立面図(ファサード)、パース・模型作成に至る一連の実践的デザイン作業を行い、空間デザイナーとしての基本的なスキルを身に付けることを目的とする。その集大成として、小規模宿泊施設の客室からパブリックエリアに至るインテリア空間を設計する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教材・スケジュール・評価方法などを説明
第2～10回	2. 小規模宿泊施設のインテリアプランニング	①計画地及び周辺環境分析・設計条件分析・競合宿泊施設リサーチより、方向性の検討 ②コンセプト策定／施設ボリューム・機能・ゾーニング・動線計画・インテリアデザインイメージの検討 ③客室ユニットプランからの平面スパン割の検討・立断面図の検討 ④ラフ図面作成／客室エリア(客室タイプ別ユニット・客室廊下・ELVホール)のプラン・インテリアスケッチ作成 ⑤ラフ図面作成／パブリックエリア(フロントロビー、レストラン、ショップ、大浴場など)のプランの検討・インテリアスケッチ作成
第11～20回	3. 小規模宿泊施設のインテリアデザイン	①客室エリア(客室タイプ別ユニット・客室廊下・ELVホール)の詳細プラン、天井伏図及び照明計画図、インテリアスケッチ・CG作成 ②パブリックエリア(フロントロビー、レストラン、ショップ、大浴場など)の詳細プラン、天井伏図及び照明計画図、インテリアスケッチ・CG作成 ③宿泊施設ロゴデザインと外・内部のサイン計画
第21～30回	4. ビジュアルライゼーション 視覚化(図面・模型作成)	①ストアコンセプト・デザインコンセプト・MDコンセプト ②平面図・天井伏図・展開図・什器図 ③パース・模型など
第31～34回	5. プレゼンテーション(発表)	①成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーション (自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼンテーション能力が必要とされる) →各作品に対する講評

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅰ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2024年度:1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）／ 吉竹 徹（自らのデザイン事務所を20年主宰している、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	都内の住宅系用途地域、及びその周辺地域にある計画地を設定し、都市型戸建て住宅、及び店舗併用住宅を設計する。店舗併用の場合、店舗と住宅という異なる機能・用途をひとつの建築として破綻なくまとめ、デザインしていくことが重要なポイントとなる。計画地とその周辺の調査・分析、法的条件による建築ボリュームの把握、施主のライフスタイルやライフサイクルへの配慮、コンセプトの策定からエスキース、プランニングを行い、各階平面図・天井伏図・断面図・立面図ファサード、パース、模型作成に至る一連のデザイン作業を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. 住宅設計の概要	ガイダンス、住宅設計の概要説明
第3・4回	2. 住宅設計の考え方	計画地・周辺環境調査・分析、法的条件チェック、コンセプト、プランニング、デザインの考え方
第5～9回	3. 住宅設計の練習課題	短期設計①
第10～14回	〃	短期設計②
第15回	4. 店舗併用住宅の設計	課題説明
第16・17回	5. 調査・分析	与えられた複数の計画地及び周辺環境リサーチ
第18・19回	〃	法的条件による建築ボリュームの把握
第20～26回	6. プログラミング（設計条件の設定）	計画地、クライアントプロフィールなどの条件設定、施設構成、機能の設定
第27～35回	7. プランニング（イメージ・コンセプト構築）	プランニング、コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第34～42回	8. デザイン（建築・インテリア計画）	平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第43～56回	9. ビジュアライゼーション（視覚化（図面・模型作成））	コンセプト・計画概要・配置図、各階平面図・立面図・断面図、外観パース・内観パース・模型など
第57～60回	10. プレゼンテーション（発表）	成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。各作品に対する講評を行なう。
第61～68回	11. 成果物まとめ	成果物まとめ・修正・データ提出

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	3単位(102時間)	開講・履修期	2024年度：1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	都内の商業系用途地域、及びその周辺地域にある計画地を設定し、複合商業施設を設計する。計画地とその周辺の調査・分析、法的条件による建築ボリュームの把握、コンセプトの策定からエスキース、プランニングを行い、各階平面図・天井伏図・断面図・立面図ファサード、パース、模型作成に至る一連のデザイン作業を行う。物販・飲食・サービス業種などを含む複合商業施設についての考察と一連のフローに基づく設計演習を行い、立地・敷地条件等に対する判断力、施設構成や空間構成に至る柔軟な発想力とデザイン力を培うことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. 複合商業施設の概要	ガイダンス、商業施設設計の概要説明
第3・4回	2. 複合商業施設の考え方	計画地・周辺環境調査・分析、法的条件チェック、コンセプト、プランニング、デザインの考え方
第5回	3. 複合商業施設の設計	課題説明
第6～8回	4. 調査・分析	与えられた計画地をリサーチ、類似施設調査
第9～12回	5. プログラミング(設計条件の設定)	法的条件チェック、施設構成、機能の設定
第13～20回	6. プランニング(イメージ・コンセプト構築)	プランニング、コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第21～28回	7. デザイン(建築・インテリア計画)	平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第29～44回	8. ビジュアライゼーション(視覚化(図面・模型作成))	コンセプト・計画概要・配置図、各階平面図・立面図・断面図、外観パース・内観パース・模型など
第45～48回	9. プレゼンテーション(発表)	成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。各作品に対する講評を行なう。
第49・51回	10. 成果物まとめ	成果物まとめ・修正・データ提出

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅲ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度・2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	細村研一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所で、主に事務所・店舗テナントビル・集合住宅・学校等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「設計演習Ⅲ」では、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき宿泊施設の建築計画を理解することを目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は主にグループワークによるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. ガイダンス、複合商業施設の概要	① 宿泊施設の概要説明、事例研究
第3・4回	2. 宿泊施設の考え方	① コンセプト／プランニング／デザインの解説
第5回	3. 宿泊施設の設計	① 課題説明
第6～8回	4. 調査・分析	①② 計画地リサーチ／類似施設調査
第9・10回	5. プログラミング(設計条件の設定)	①② 法的条件チェック 施設構成、機能の設定
第11～16回	6. プランニング(イメージ・コンセプト構築)	①② プランニング コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第17～24回	7. デザイン(建築・インテリア計画)	① 平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第25～32回	8. ビジュアライゼーション 視覚化(図面・模型作成)	①②③ コンセプト・計画概要・配置図 各階平面図・立面図・断面図 外観パース・内観パース・模型
第33～34回	9. プレゼンテーション(発表)	① 成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。 (自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼン能力が必要とされる) 各作品に対する講評を行なう。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図 I	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2024年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働きを理解すると共に、オペレーティングシステムとの関係について学んだ上で、製図の基礎知識とCADの総合的な知識を融合し、建築やインテリアデザインの設計製図に活用することを目指す。1年次ではCADソフトVector Worksによって建築及びインテリアの図面を描く。設計課題にリンクし図面を描けるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD図面の作図方法を学ぶ。また、他の3D・CGソフト及びプレゼンテーションソフトとのリンク方法を学ぶ。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. コンピューター基礎概論	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの両概論、及びその機能と働き
第3回～ 第6回～ 第8回～	3. VectorWorks基本操作	OS／Mac概論(Macの画面構成／基本操作) OS／Mac概論(Macの画面構成／基本操作)
第12回～ 第15回～ 第17回～ 第19回～		VectorWorksの基本環境設定と操作の基本 VectorWorksの基本操作の練習1 VectorWorksの基本操作の練習2 VectorWorksの基本操作の練習3
第21回～ 第24回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第39回	4. VectorWorks基礎製図練習	VectorWorksによるCAD図面作成1(平面図概要) VectorWorksによるCAD図面作成2(平面図の作成1) VectorWorksによるCAD図面作成3(平面図の作成2) VectorWorksによるCAD図面作成4(平面図の作成3) VectorWorksによるCAD図面作成5(平面に関する建具図作成) VectorWorksによるCAD図面作成6(立面図の作成) VectorWorksによるCAD図面作成7(断面図の作成) VectorWorksによるCAD図面作成8(図面の総合学習) VectorWorksによるレイアウトとデザイン
第41回～ 第44回～ 第47回～ 第50回～ 第53回～ 第56回～	5. VectorWorks製図練習	CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（作図の為の基礎知識） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（家具図） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（展開図1） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（展開図2） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（断面図1） CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習（断面図2）
第60回～ 第63回～ 第66回～ 第68回	6. プレゼンテーション総合演習	CADを利用したプレゼンテーション総合演習1 CADを利用したプレゼンテーション総合演習2 CADを利用したプレゼンテーション総合演習3 プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2024年度：2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	ArchiCADを学習しBIMによる設計システムを理解する。後半ではAutoCADで建築図面の作成を習得し基本CAD・BIMシステムを理解できるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD・BIM図面の作図方法を学ぶ。また、他の3D・CGソフト及びプレゼンテーションソフトとのリンク方法を学ぶ。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. ソフトインストール	各アプリケーションソフトのインストール
第3回～ 第6回～ 第8回～	3. ArchiCAD 学習方法 4. ArchiCAD 基本操作	ArchiCADの学習目的・学習方法 ArchiCAD基本操作1 ArchiCAD基本操作2
第12回～ 第15回～ 第17回～	5. ArchiCAD 基本作図練習	ArchiCAD 建築図面作成(平面計画の3次元リンクの学習1) ArchiCAD 建築図面作成(平面計画の3次元リンクの学習2) ArchiCAD 建築図面作成(平面・立面・断面・3次元の関係性の学習)
第19回～ 第21回～ 第24回～	6. ArchiCAD 応用作図練習	ArchiCAD 建築図面作成(作図と3次元のレンダリングシステムの学習1) ArchiCAD 建築図面作成(作図と3次元のレンダリングシステムの学習2) ArchiCAD 建築図面作成(作図と3次元のレンダリングシステムの学習3)
第28回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第39回	7. ArchiCAD プレゼンテーション 8. BIM・3D-CADのまとめ	ArchiCAD 建築図面作成(プレゼン方法の学習①) ArchiCAD 建築図面作成(プレゼン方法の学習②) レンダリングシステムの基本1 レンダリングシステムの基本2 BIMシステムのまとめ 3D-CADシステムのまとめ
第41回～ 第44回～ 第47回～ 第50回～ 第53回～ 第56回～ 第60回～	9. AutoCAD 基本操作 10. AutoCAD 作図練習	AutoCADの環境設定と基本能力確認 CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (作図の為の基礎知識) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (家具図) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (展開図1) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (展開図2) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (断面図1) CAD利用技術者建築1級試験を利用した作図練習 (断面図2)
第63回～ 第66回～ 第68回	11. AutoCAD まとめ 12. BIM・CADシステムのまとめ	応用コマンド演習1(応用編集コマンド・作図コマンド) 応用コマンド演習2(まとめ) 総合的にBIM・CADシステムの活用・応用方法を理解する

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	3D・CG I	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度:1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	3DソフトSketchUPのモデリング能力を学習する。またレンダリング及びムービーではレンダリングソフトTwinmotionを学習し総合的表現能力を習得する。また、Photoshopの基本を学習する。最終的に設計課題とリンクして3次元モデルでの表現方法の応用を計る。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、3D・CGソフトを使うことによりプレゼンテーション時の表現能力を身に着ける。また、Photoshopのグラフィックソフトを利用することにより表現方法の充実を計る。理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2・3回	2. SketchUp・基礎概論	SketchUpの基本環境設定と操作の基本
第4・5回	基本操作	SketchUpの基本操作の練習1
第6・7回		SketchUpの基本操作の練習2
第8・9回	3. SketchUp モデリング	SketchUpの基本操作の練習3
第10・11回		SketchUpによる住宅のモデリング基本1
第12・13回		SketchUpによる住宅のモデリング基本2
第14・15回	4. SketchUpプレゼンテーション	SketchUpによる住宅のモデリング基本3
第16・17回		SketchUpによるプレゼンテーション1
第18・19回	5. Photoshop	SketchUpによるプレゼンテーション2・ムービー作成
第20・21回		Photoshop基本操作1
第22・23回	6. Twinmotion	Photoshop基本操作2
第24・25回	基本操作	Twinmotionの基本操作1
第26・27回	7. Twinmotion	Twinmotionの基本操作2
第28～30回	レンダリング	Twinmotionのレンダリングとプレゼンテーション1
第31～34回	8. プレゼンテーション	Twinmotionのレンダリングとプレゼンテーション2
	総合演習	プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	3D・CGⅡ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	3D及びBIMソフトのモデリング能力を応用してレンダリング技能を学習しムービーでのプレゼンテーション能力を総合的に習得する。最終的に設計課題と連携して3次元モデルでの表現及びプレゼンテーション方法の応用を計る。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、3D・CGソフトを使いこなすことによりプレゼンテーション時の表現能力を身に着ける。また、グラフィックソフトを学習することにより表現方法の充実を計る。理解が出来たかを確認するため課題提出を実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回～ 第4回～ 第6回～ 第8回～ 第10回～ 第12回～	2. Photoshop・SketchUPの 確認・復習及びビデオ編集	SketchUPの確認・復習作業と実習 Photoshopの確認・復習作業と実習 ビデオ編集の基本を学習(1) ビデオ編集の基本を学習(2) ビデオ編集の基本を学習(3) ビデオ編集の基本実習
第15回～ 第19回～ 第23回～ 第27回～	3. Twinmotion 基本・応用ツールの学習	Twinmotionの基本ツールの復習と実習 Twinmotionの応用ツールの学習と実習1 Twinmotionの応用ツールの学習と実習2 Twinmotionの応用ツールの学習と実習3
第31回～ 第34回	4. 3D・CGプレゼン実習 5. まとめ	3D・CGソフトを使いプレゼンテーションの実習を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2024年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（自らのデザイン事務所を20年主宰している、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、およびショップデザインや商業施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリア及び商空間に関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものであるとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① ショップデザインや商業施設の調査・分析	ショップデザインや商業施設を実際に見て調査し、「魅力ある商空間」を設計するための参考にする。
第7～11回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第12～20回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第21～27回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第28～32回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第33～39回	② 進級制作のための調査	進級制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第40～46回	必要な資料の収集	進級制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第47～56回	参考作品・展覧会の見学	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第57～64回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第64～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2024年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、およびショップデザインや商業施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリア及び商空間に関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考施設の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① ショップデザインや商業施設の調査・分析	ショップデザインや商業施設を実際に見て調査し、「魅力ある商空間」を設計するための参考にする。
第7～11回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第12～20回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第21～27回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第28～32回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第33～39回	② 卒業制作のための調査	卒業制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第40～46回	必要な資料の収集	卒業制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第47～54回	参考作品・展覧会の見学	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第55～60回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第61～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	屋間部2年制
取得単位数	6単位(204時間)	開講・履修期	2024年度・2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	細村研一（実務経験を持つ一級建築士であり、建築設計事務所で設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所等で設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 石原将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「卒業制作」では、集大成として各学生が自由なテーマを設定し、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき計画を進める。テーマに関しての情報収集・処理能力や具体化への企画構想力、プログラムにたいして的確な判断力、プランニング・デザインにおける豊かな想像力、造形力、ビジュアライゼーション・プレゼンテーションにおける表現力等をやしなうことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1～4回	1. ガイダンス、テーマ設定	卒業制作の目的・テーマ設定に関する考え方・昨年度のテーマ事例・今後のスケジュール・作業内容についての概要説明
第5～10回	2. 主要テーマに関する基礎講義	都市における商業機能と場・空間について考える。都市的な視点からの街づくりから複合商業施設、市場、路面店、露天商(屋台)まで様々なスケールでの可能性を探る
第11～15回	3. リサーチ(調査・分析)	テーマに関する資料収集 計画地・周辺環境の調査・分析
第16～26回	4. プログラミング(設計条件の設定)	敷地設定・敷地条件確認 敷地規模設定・ボリュームチェック 施設構成(平面・タテ)・ターゲット設定
第27～39回	5. プランニング(イメージ・コンセプト構築)	イメージスケッチ・イメージ写真 コンセプト・キーワード設定 配置計画・ゾーニング計画 スペース計画・(各室用途・規模) 構造計画 動線計画・基本レイアウト計画
第40～66回	6. デザイン(建築・インテリア計画)	デザインスケッチパース(全体・部分) 平面計画(各階) 立面計画(4面) 断面計画(2面) 配置計画(敷地+屋根伏せ) 色彩計画(内外装仕上げ) インテリア計画(家具・造作) 外構・緑化計画 面積表
第67～98回	7. ビジュアライゼーション(視覚化(図面・模型作成))	設計主旨・イメージ写真 平面図 立面図 断面図 内観パース・外観パース 模型
第99～102回	8. プレゼンテーション(発表)	成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。(自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼン能力が必要とされる) 各作品に対する講評を行なう。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーションⅡ	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」の操作習得を通し、商業デザイナーとして効果的なビジュアル計画を構築する能力を身に着ける。また、デジタルツールを横断的に使用し、計画・提案を他者への確に伝えるプレゼンテーションスキルの習得を目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、ショップデザインⅡの課題と連動しながら、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得をする。また、今までに習得したデジタルツールを横断的に活用し、ポートフォリオの作成を通じてプレゼンテーションスキルの向上を図る。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものであるとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回～	2. ヴィジュアルデザインの概要	・商業デザインにおけるヴィジュアルデザインの役割と領域
第3回～	3. ロゴデザイン	・Illustratorの基本操作 ・ロゴデザインの考え方 ・Illustratorを活用したロゴデザイン
第6回～	4. サインデザイン	・サインデザインの考え方・計画 ・商業施設におけるサイン計画事例 ・Illustratorを活用したサインデザイン
第10回～	5. サイン計画の実践	・設計Ⅲの課題と連動しサイン計画を行う。
第24回～	6. デジタルプレゼン(1)	・Photoshopの基本操作 ・背景、添景、人の合成 ・手描き風写真加工
第27回～	8. デジタルプレゼン(2)	・プレゼンテーションの基礎 ・プレゼン資料のレイアウト ・プレゼン資料のデザイン(トーン&マナー)
第28回～ 第34回	9. デジタルプレゼン実践	・ポートフォリオの作成

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	ライティングプラン	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	高橋 翔（建築設備設計事務所にて庁舎や商業施設、病院等の設備・照明設計監理の実務に現在従事している経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「ライティングプラン」では、計画からプレゼンテーションまでの手法を課題作成により学習し、実務レベルの知識を身に付けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全て個人によるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第4回	1. スケジュール・課題内容説明	①スケジュール及び課題内容説明。 設計科目に連動した課題テーマに基づいて、施設の各箇所を設定し 最終的に照明計画を行う。
第5回～ 第14回	2. 調査・分析	①各個人別に業種・インテリアの方向性等計画の方向性を決定する。 ②実店舗などの「リサーチ」を行う。 ③イメージ素材の収集・まとめ
第15回～ 第16回	3. 照明基礎知識	具体的な照明計画に入る段階で基礎知識・用語を習得する。
第17回～ 第28回	4. 詳細計画	①各自で詳細計画 平面計画（ゾーニング・動線・客層・席数の検討） 照明計画（配灯図・器具表の作成）
第29回～ 第34回	5. プレゼン・講評 最終提出	①設計趣旨・計画の説明をクラス内で行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	家具デザイン	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2024年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（自らのデザイン事務所を20年主宰し、インテリア実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	日々の暮らしや仕事、交流や休息の場面を支えている家具。家具の3要素である「強(堅牢・丈夫)/用(機能・使いやすさ)/美(美しさ・快適さ)」を基軸に、課題に取り組むプロセスのなかで、発想力を磨き上げることを学びます。その集大成として、自身でデザインした家具の企画書・設計図・3D・模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実物調査や専門機関の見学など、原寸レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドを用い、実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。調査と体験からコンセプト・デザイン・設計を家具のカタチにまで造り上げ、プレゼンテーションすることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回～	1. ガイダンス /講義	家具デザインとは(概論) 家具の実例をもとに、「強・用・美」から学ぶ家具の基礎概論 ※基礎概論～強度・人間工学と用・美しいということ・スタイルの調和
第4回 第5回～	2. 実物(体験)調査 /プレゼンテーション	「名作家具から学ぶ」モダン家具のデザインを実体験 ※プレゼンテーション形式による、レポート作成
第11回～ 第15回	3. 課題演習Ⅰ /講義	「家具デザイン課題演習Ⅰ」 制作フロー～発想原点・テーマと造形・モックアップ制作・作図・プレゼンテーション
第16回	A インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修
第17回～ 第19回～ 第22回～	4. 課題演習Ⅱ 5. 家具企画案 6. 設計図書製作① 設計図書製作② 設計図書制作③	「家具デザイン課題演習Ⅱ」 ラフスケッチによる、アイディア出し、コンセプト作成 コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成① コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成② コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成③
第27回	7. /中間プレゼンテーション	中間プレゼンテーション、中間講評会
第28回～	8. 家具模型製作① 家具模型製作②	家具、模型製作① 家具、模型製作②
第32回～	9. 最終プレゼンテーション① 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会① プレゼンテーション、個別作品講評会②
第34回	10. 最終講評会	各作品全体講評会、家具デザインのまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・後期19週 年間計19週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	ビジネス実務	開講学科	商空間デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2024年度・1年(後期)	講義区分	一般教養
教員紹介	中村めぐみ、堀田恭代(就職指導業務に従事した実務者が、経験を生かした授業を行う。)				
授業の到達目標	専門学校卒業後の進路を考え、就職活動に必要な基礎知識や履歴書の作成方法等を学ぶ。基本的な挨拶やビジネスマナー等の習得を目標とする。				
授業の概要及び特徴	オンラインでの講義形式を基本とする。ワークや提出書類でキャリアについて自分の考えをまとめていく。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 働く目的と働き方	働く目的や働き方、仕事の種類を解説
第2回	2. コミュニケーション	コミュニケーションの基本である挨拶の重要性について解説
第3回	3. 就職ガイダンス	活動スケジュール、インターンシップ、就活準備の解説
第4回	4. 社会に対する関心	社会に対する関心を持つ(毎日の時事への関心を習慣化する)
第5回	5. 自己分析①	自分を振り返り、理解する
第6回	6. 自己分析②	①振り返りシート作成 ②自己分析シート作成
第7回	7. 履歴書①	①履歴書の目的、作成方法のポイントを解説
第8回	8. 履歴書②	②履歴書用紙に記入練習
第9回	9. 面接対策①	①説明会、会社訪問(WEB・対面)のポイントを解説
第10回	10. 面接対策②	②面接(集団・個人・WEB・対面のポイント)を解説
第11回	11. 入社試験対策	筆記試験・適性検査の特徴と対策を解説
第12回	12. 電話	電話対応のポイントを解説
第13回	13. メール	ビジネスメールのポイントを解説
第14回	14. 手紙	送付状・封筒宛名の書き方と送付方法のポイントを解説
第15回	15. ビジネスマナー①	①報告・連絡・相談の重要性の理解と解説
第16回	16. ビジネスマナー②	②敬語・言葉使いと訪問時マナーのポイントを解説
第17回	17. ビジネスマナー③	ビジネスマナーの解説・まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週